

『広島市被爆70年史』を語る～都市の記憶と未来～ 広島建築文化と平和都市像



略歴

兵庫県生まれ。1972年東京大学工学部建築学科卒業。75-77年カールスルーエ大学、ベルリン工科大学に研究留学。79年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了、「ドイツ新古典主義建築の造形理念に関する研究」で工学博士。79年広島大学工学部助手、助教授、97年教授となり、2010年工学研究科教授を経て、2015年定年退任、名誉教授。1999年日本建築学会賞受賞。西洋・近代建築史専攻。

著書

『バウハウス その建築造形理念』鹿島出版会 SD選書 1979
『建築の現代思想 ポスト・モダン以後のパラダイム』鹿島出版会 1986
『建築夢の系譜 ドイツ精神の一九世紀』鹿島出版会 1991
『ベルリン 都市は進化する』1993 講談社現代新書
『ドイツ新古典主義建築』中央公論美術出版 1996
『二〇世紀の建築思想 キューブからカオスへ』鹿島出版会 1998

講演者 杉本俊多（すぎもと としまさ） 広島大学名誉教授

日時 2020年11月14日（土） 15：00～17：00

開催方法 zoomによるリアルタイム配信（※下記の場所にて配信の視聴会場を設けます）

合人社ウエンディひとまちプラザ（まちづくり市民交流プラザ） 4F ギャラリーB
〒730-0811 広島市中区袋町6-36 ☎ 082-545-3911

※参加無料（視聴会場の定員：54名…申込み先着順）、本学会員以外の方々の参加も歓迎いたします。

広島市は『広島市被爆70年史 あの日までそして、あの日から 1945年8月6日』を、2018年7月に発刊しました。この70年誌は「都市と市民生活」を基本テーマに、大きくは戦前編（主として明治・市政施行以後）・戦中編・戦後編が基軸となり、それに特論と年表編が加わっています。執筆者は20人を超えていますが、その中に本学会の会員である杉本俊多先生が入っております。

2020年度第1回都市計画研究会では杉本俊多先生をお招きし、執筆に当たってその背景となった事象や資料に関すること、特に伝えたかったこと、紙面の関係で書ききれなかったこと、苦労したことなどをお聞きするとともに、広島や都市の未来などについて語っていただきます。

※開催延期となっていた「2019年度第3回都市計画研究会」にて予定していた内容となります。

主催：公益社団法人 日本都市計画学会中国四国支部（企画・研究委員会）

共催：一般社団法人 日本建築学会中国支部 都市計画委員会（予定）

申込先：企画・研究委員会 担当 福馬 晶子

E-mail：fhaniwa@gmail.com TEL：(082)293-1460

※参加ご希望の方は11月9日（月）までにお名前・ご所属・参加方法（zoom利用 or 会場利用）を上記メールアドレスまで、ご連絡ください。zoomでのご参加の場合は配信の視聴方法をご返信いたします。